

2025 年（令和 7 年度）

第 13 回 中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区訪問
吉備中央町中学生国際交流研修団報告書



吉備中央町国際化推進協会

目 次

■はじめに	吉備中央町長 山 本 雅 則	2
-------------	----------------------	---

■報告書発行によせて	吉備中央町国際化推進協会 会長 土 居 一 晴	3
---------------------	-------------------------------	---

■第13回中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区訪問

吉備中央町中学生国際交流研修団

〈名 簿〉	4
〈記録写真〉	5
〈研修団報告書〉	13

【参考資料】

〈研修団募集から帰国まで〉	28
〈日 程〉	29
〈中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区の概況〉	30
〈現在までの交流の経過〉	31

はじめに



令和7年8月2日（土曜日）から8月7日（木曜日）まで、吉備中央町中学生国際交流研修団は中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区を訪問いたしました。今回の訪問は13回目となり、コロナ禍の影響を受け、実に6年ぶりの再訪となりました。この研修を通じて、これまでの交流の成果を振り返るとともに、今後の更なる文化交流に向けた協力体制を整えることができたと確信しております。厳しい猛暑の中でこの大役を果たされた皆さん、大変お疲れ様でした。

淮安区での訪問中、参加者は盛大な歓迎会に出席し、ホームステイを通じた家庭での体験、さらには中学校訪問での交流会など、多くの交流の機会を持ちました。これらの活動を通して、参加者の皆様は非常に有意義で貴重な体験をされたことでしょう。また、淮安区の施設見学を通じて急速に進展する中国の経済発展を直接目の当たりにし、大きな感動を味わったことと思います。

吉備中央町では、岡崎嘉平太氏と周恩来総理の友好に基づき、1999年1月に中華人民共和国淮安区との友好提携を締結しました。それ以来、国際感覚豊かな次世代のリーダーを育成するために、隔年で中学生を対象とした国際交流研修団の派遣事業を行ってまいりました。この事業が継続して実施されているのも、ひとえに多くの皆様のご支援とご協力のおかげであると、深く感謝申し上げます。

この報告書には、団長以下12名（引率者4名、中学生8名）が参加し、国境を越えた人々との心温まる交流や、示唆に富んだ実体験の数々が収録されています。本書が国際理解や交流に関わる多くの方々に読まれ、参考資料としてご活用いただけることを願っております。

最後になりましたが、この度の中学生国際交流研修団の派遣に際し、多大なるご支援を賜りました吉備中央町国際化推進協会の皆様をはじめ、淮安区ならびに江蘇省対外交流有限公司の関係者各位に心から感謝の意を表します。

2025年12月

吉備中央町長 山本 雅 則

報告書発行によせて



地域上いたるところでの目を覆いたくなるような戦禍など、厳しい国際状況ですが、無限の可能性を秘めた中学生 8 名が、周恩来先生の幼少期を育んだ江蘇省淮安市淮安区で世界が安穏になることを願う学習をしました。

私たち日本人の心の底に流れている道徳律豊かな深い哲学思想は、全てと言っていい程大陸中国の先人の皆さまから教わったものです。しかし、現状は、第二次世界大戦後欧米の人間資本中心の合理的考え方が滲透し、その恩恵がめざましい経済発展につながりましたが、一方由由しきことに大切な哲学思想がその経済発展の陰に隠れてしまっています。

「水を飲むとき井戸を掘った人のことを忘れない」大陸中国の深い哲学を含んだ、諺です。周恩来先生が岡崎嘉平太先生のことを「国交正常化の井戸を掘った人」と語ったこの言葉は、歴史に残るでしょう。世界一の宰相と言われたドイツのメルケル首相が中国の古い伝統文化を尊重しなければならないと語っていたこともうなずけます。

次の時代を背負う若者たちがこの研修で、なにものにもかえがたい大切な気付きをおさめられたことをうれしく思います。

2025年12月

吉備中央町国際化推進協会 会長 土 居 一 晴

2025年（令和7年度）吉備中央町中学生国際交流研修団名簿

職名	氏名	NAME	性別	所属
団長	大場めぐみ	OBA MEGUMI	女	加賀中学校 校長
副団長	大月道広	OTSUKI MICHHIRO	男	町協働推進課 課長
団員	小野智慶	ONO TOMOYOSHI	男	加賀中学校 教諭
団員	信川香織	NOBUKAWA KAORI	女	町協働推進課 主事補
学生リーダー	大地きなり	OCHI KINARI	女	加賀中学校 3年生
学生サブリーダー	大倉英治	OKURA EIJI	男	加賀中学校 3年生
学生	坂井香南	SAKAI KANA	女	加賀中学校 3年生
学生	戸田治希	TODA HARUKI	男	加賀中学校 3年生
学生	松田翔流	MATSUDA KAKERU	男	加賀中学校 3年生
学生	大谷新太	OTANI ARATA	男	加賀中学校 2年生
学生	大森妃奈乃	OMORI HINANO	女	加賀中学校 2年生
学生	吉田小春	YOSHIDA KOHARU	女	加賀中学校 2年生



訪問団員

— 記 録 写 真 —

● 8月2日 中国第1日目 壮行式～上海



力強い決意表明をする学生リーダー大地きなりさん



教育長から激励のお言葉を受ける団員



多くの方に見送られ出発



岡山空港で出国手続き



まもなく搭乗 これから始まる訪中にワクワク



機内食



機内から見える景色



上海浦東国際空港に到着
バスから見る空港の広さに圧倒される



広大な長江をかけぬけ淮安へ



周恩来記念館



周恩来総理と岡崎嘉平太氏が握手している写真



立派な周恩来総理の像



周恩来故居にある岡崎嘉平太氏が植樹された桜



歓迎会



歓迎会であいさつするリーダー 大地きなりさん



桃太郎の演劇と日本のアニメを紹介



淮安市からの記念品 「西遊記」の切手集



淮揚料理

● 8月4日 中国第3日目 呉承恩故居、淮安府署等の視察・河下古鎮散策



呉承恩故居（西遊記の作者）



三蔵法師と孫悟空たちの像



「水を飲むとき井戸を掘った人のことを忘れない」



漕運博物館



淮安府署（歴史ある行政施設）



六課と多くの建物がある府署内



百斯特（BESTA）生態農業園



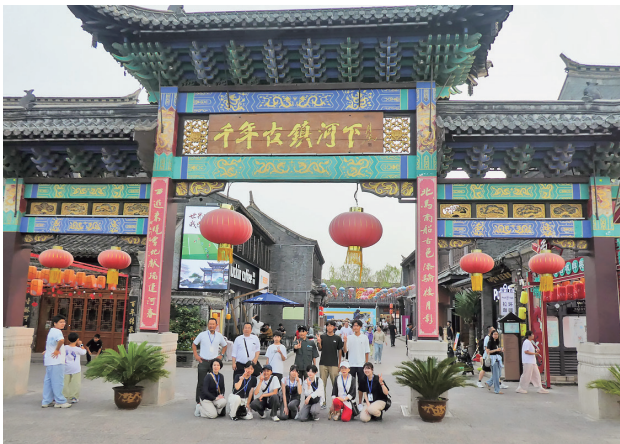
大規模な農園
作られた作物は、学校やスーパーに送られている。



施河智教享小鎮



先進的な学校機材と AI を活用した学習の場を見学



河下古鎮



趣のある町並みを散策



ホストファミリー（湯紫涵さんご家族と）



ホストファミリー（庄浩宇さんご家族と）



ホストファミリー（蔣泓瑞さんご家族と）



ホストファミリー（鮑品希さんご家族と）

● 8月5日 中国第4日目 淮安市青少年総合実践基地での活動



淮安市青少年総合実践基地



月面の土を集めるロボット操作ゲーム



中国の伝統的な技法をつかった漆扇作り



それぞれ個性あふれる作品ができました



基地内での昼食



ミニロケットを製作 外で発射させました



アートな点心づくり



出来上がり！



8月6日 中国第5日目 淮安外国語学校視察、協定調印式、友好交流会 ～ 上海



淮安外国語学校



淮安外国語学校校長
曹國柱さん



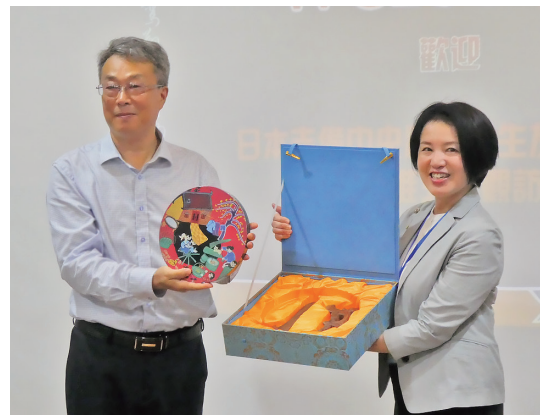
心のこもった合唱での歓迎



伝統舞踊の披露



中日教育交流協定締結（淮安外国語学校と加賀中学校）



学校から贈られた記念品 生徒が作製した博里農民画



ドラゴンボート



椅子とりゲームで交流



淮安外国語学校にて記念写真撮影

● 8月6日 中国第5日目 淮安外国語学校視察、協定調印式、友好交流会～上海



最後の淮揚料理



淮安区とお別れ 陳祖敏副区長との最後の交流



上海市内の飲食店での夕食



皆を虜にしたザリガニ料理

● 8月7日 中国第6日目 上海～帰国



上海空港でお別れ



帰国し、岡山空港での解散式
6日間を振り返るサブリーダー 大倉英治さん



総合会館で最終解散



機内食

—— 研修団報告書 ——

未来への鍵～2025淮安を訪れて～

団長 大場 めぐみ



2019年の訪中以来コロナ禍で途絶えていた淮安との友好交流が、今年の夏、淮安市からの訪問団により再開されました。昨年、加賀中学校で生徒同士が笑顔で交流している姿が思い出されます。あれから1年、

実際に淮安を訪れることになり、生徒8名とともに淮安を訪問する喜びと緊張を胸に、8月2日吉備中央町を出発しました。



高層ビルが立ち並ぶ街、田園風景が広がる農村、悠然たる長江の流れを眺めながら、上海から淮安まで約400kmの道をバスで走りました。車窓から山々が見えることは一度もなく、ただただ広い平野が広がる景色、中国の広大さに圧倒されました。淮安は、古くから運河の要衝として栄え、歴史と伝統を感じるとともに現代的高層ビルが立ち並ぶ街でした。淮安到着後、周恩来記念館や周恩来故居の見学に始まり、毎日、淮安の歴史や文化を学ぶ見学や体験、淮安市青少年総合実践基地ではホームステイ先の中学生と作成したロケットを飛ばしたり、先遣漆扇を作成したりと特別な体験をたくさんしました。また、淮陽料理での歓待に何度も舌鼓みを打ちました。

最も思い出深いのは、8月6日に訪問した淮安外国語学校です。淮安外国語学校の門をくぐると淮安区の副区長陳祖敏氏、淮安外国語学校長曹国注氏をはじめとする方々が笑顔で迎えてくださいました。最初に代表生徒の案内で、校内を巡りました。読書スペースが目的に応じて3か所あったり、成績優秀者や卒業生の活躍が掲示されていたりと加賀中学校との違いにも興味をもちながら歩きました。その中で、生徒への願いが同じことに感動したのは、正面の校舎が弧を描き、空から見ると「鍵」の形になっていること、水を張っている場所が「鍵」の形になっていることの意味を聞いたときです。「鍵」は、未来の扉を開く鍵の意味があり、学校で学ぶことで未来への扉を開いてほしいという願いが込められていると曹国注校長からお聞きしました。私自身、1学期の終業式で加賀中学生に「中学校で学ぶすべてことは、未来の扉を開く鍵になります。」と伝えていました。淮安で同じ思いに触れ、心から感動しました。生徒による歓迎を受け、和やかな雰囲気の中、今年の淮安市蘇州実験中学校に続き、淮安外国語学校と中日教育交流協定を結びました。

今回の淮安訪問で、多くの方々の温かさに触れました。拙い挨拶の中で、ほんの少し中国語を交えただけで



で拍手をいただくことができました。「伝えようとする思い」と「思いを受け取ろうとする思い」が言葉を越えたつながりを生むと感じた瞬間でした。今回、初めてのことに触れ、互いに理解しようとすることで世界が広がることを体験し、新たな鍵を手に入れた中学生たちの今後が楽しみです。周恩来元首相と岡崎嘉平太氏が築いた友好の絆を淮安と吉備中央町が受け継ぎ、若い世代の世界を広げ、新しい絆を生み続けていることが、新たな未来を豊かなものにしていくと信じています。最後に、今回の淮安訪問にご尽力くださったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

中学生国際交流研修事業（中国訪問）を終えて

副団長 大月道広



まず、昨年25周年を迎えたこの交流が、今年も関係者の皆さまの御尽力をいただいて継続できたことに心から感謝を申し上げます。

さて、「地平線」を見ることができる場所は国内においてもいくつかあると思います。し

かし、「地平線が」400kmを超えて移動する中でも延々と続いていることを目の当たりにしたことによる、正に「中国大陸」を実感した驚きから私の今回の訪問は始まりました。

淮安区は、吉備中央町と比べると面積で言えば5.4倍、人口で言えば120倍とはるかに規模は大きく、悠々たる歴史を兼ね備えるとともに、近代の経済発展の成果も併せ持ち、中国国内でも観光の名所とされているなどの説明を受け、まさにそのとおりと実感しました。

今回の訪問では、岡山空港から発し、中国の上海空港に到着しました。まず、上海空港の大きさに圧倒されました。上海で1泊後、前述のとおり淮安への移動の中で、中国の大きさを実感し、道沿いでは常に道路や高層の建物が建設中など、経済発展の勢いを垣間見ることができました。そして、淮安到着後には、周恩来元首相及び呉承恩氏の故居、淮安府署を始めとした中国古来のものから、宇宙において惑星探索に用いられる技術や学校において使用される学習の指導機器など最先端技術の見学を行う中で、中国の古き良きものを大事にするとともに、最先端の文化が両立しながら発展する好事例に接することができました。

学校訪問では、生徒から直接学校内の説明を詳しく行っていただき、お互いの中学校の友好締結が行われ、今後の交流を深める礎となったと感じております。

そして何より、淮安市及び淮安区の方々をはじめ、各訪問先及びホストファミリーの方々からの温かい歓迎を受け、今回訪問した生徒たちも心温かく感じたものと思います。我々訪問団のために常に最優先に考えていただき、行動予定についても臨機応変に対応していただくなど感謝の気持ちで一杯となり、これが訪問される方を迎えるときの気持ちの表し方であるとのことをご改めと思い、感じさせていただいたものとなりました。翌年度の受入れ時には、この感謝の思いを行動でお返しさせていただこうと思っております。

さらにうれしいことに、今回の訪問の中で、参加した中学生から「体験してみないと、分からないこと、その良さが理解できないことがあるということが分かった。」との声を聞いたときに、ひそかにこの声を聞いたことで「今回の事業の成果は得られ、達成できた」と思いました。そして、こうした率直な思いを表現できる生徒たちを誇らしく思い、日頃の先生方の指導のおかげであると感じさせられました。

今回、訪問に参加してくださった生徒の方、参加に御尽力いただいた保護者の方、引率する中で常に御配慮いただいた大場校長及び小野教諭、通訳として同行いただいた伊達様、そして何より現地でご迎え入れていただいた中国淮安市及び淮安区の関係者の皆さま、訪問先で迎えていただいた皆さま、ホストファミリーの皆さま方に改めて感謝を申し上げ結びの言葉といたします。



念願だった吉備中央町国際交流事業

団員（加賀中学校教諭）小野 智 慶



約20年ぶりの海外であった。学生の頃から、多くの国は訪れたが、中国に行ったことはなかったが経済成長を続けている中国に興味と憧れをもっていた。また、社会科の教員として、岡山県の偉人であつて日本の経済界を引っ張ってこられた岡崎嘉平太氏の

ことは個人的に勉強していた。そして、吉備中央町が国際交流事業として、淮安と提携を結んでいたことは以前から知っていた。加賀中に赴任後、この国際交流事業にぜひ参加したいと思っていた。ついに念願だった交流事業に大きな使命感をもって参加した。

中国に着いて驚いたのがスケールの大きさと経済発展である。地下鉄で移動するほど大きな上海空港。淮安に向かう6車線の高速道路。どこまでも続く高層マンション。海のような揚子江。上海を抜けると、中国の広大な国土に感動した。どこまでも続く地平線で山がない。見渡す限りの田園風景。何もかもが日本とスケールが違った。淮安に着くと、地方都市とは思えないほどの高層マンションと人の多さ。街には驚くほどの車と所せましと電動バイクが走っていた。人々のエネルギーと経済成長の熱気を感じた。

そして、歴史ある街の淮安を訪れたことで中国の文化や歴史の奥深さを知ることができた。周恩来の生誕の地であり、西遊記の作者である呉承恩の出身の街でもあった。さらには、歴史上重要な運河が流れ、昔から府署（役所）が置かれるなど中国でも中心的な街であった。次に料理の紹介をしたい。正直、私のルーツは中国にあるのではないかとさえ思った。出てくる料理が口に合う。田ウナギ、ザリガニ、鳩など珍しい料理も口にした。明らかに日本とは違う食文化だが、どこか懐かしく感じてしまう。そして、中国人と料理を一緒に食べると尚更おいしい。なんだか、昔からの友人と食事をしているかのようなのであった。我々を出迎えてくださった方々には、本当に良くしていただきました。

しかし、中国と日本の間にも負の歴史があつたことも忘れてはならない。周恩来記念館を訪れた際に、かつて日本と中国が戦争した歴史も刻まれていた。かつて、私の祖父が中国戦線に加わっていた。その地に80周年後に訪れることに、特別な意味を感じた。正直、中国人は日本のことをどう思っているのだろうか？そんな感情を持ちながら、数日間を過ごした。ホテルのテレビでは常に抗日戦線の映画が上映されている。不安になり、通訳の王さんに日本との戦争のことをどう思っているのか？と、思い切って聴いてみた。歴史は歴史です。確かに、日本は中国人に対してひどいこともした。だけど、今は前を向いて進んでいますし、日本の

ことも尊敬しています。その言葉に救われた。もし、20年前に亡くなった祖父が生きていたら、この言葉を聞いて安心したことだろう。私は、これからも日本と中国の関係が、お互いを尊敬できる関係であり続けることを願っている。

最後に、今回このような研修事業に参加することができ、大変貴重な経験をする事ができて感謝しています。この経験したことを、自分自身の教員人生に生かしていくだけでなく、多くの吉備中央町の生徒にこの経験を伝え還元していきたい。



6年ぶりとなった中学生国際交流研修事業

団員（町協働推進課） 信川 香織



着いた瞬間に感じた高温と湿気さに、日本ではないことがすぐに分かりました。バスから見えた上海空港は、首を動かさないと見渡しきれないほど大きく、感動したことを覚えています。目にする建造物はどれも高く、大きなものでした。

淮安区という地域は人口約120万人を擁する広大な地域でありました。ただ、滞在



中、日本人を見かけることがありませんでした。通訳の王さんにお聞きすると、「周恩来総理や呉承恩氏のふるさととして親しまれ、非常に長い歴史があることから、中国人の観光地としてよく訪れられている」とのことでした。実際に偉人の記念館や故居は、多くの人がいて、それだけに、中国国内で多くの人々に親しまれている都市であることを知りました。

また、淮安区は、中国四大料理のひとつである淮揚料理の発祥地として知られています。繊細で薄味の料理が多く、素材の味を生かした品々をととてもおいしくいただきました。私の想像する中国料理とは少し違って、辛さも控えめで非常に食べやすく、毎回円卓いっぱい並べられる料理に圧倒されました。中国では、食べきれないほど料理を出すことがおもてなしの礼儀であり、文化の違いを学ぶと同時に、惜しみない歓迎の心を感じました。

さらに、交流が停止していたこの時期にも、多くの発展を遂げられています。特に交通機関の整備が進んでいることが分かりました。ここ10年で、淮安にも飛行場ができ、従来の高速鉄道（日本でいう新幹線）に加え、もう一つ新たに鉄道が整備されていました。いつか、岡山空港から直接淮安の飛行場に着陸できる日が来るかもしれません。

3日目と4日目に、2件ずつホームステイ先へ連れて行っていただき、学生たちの様子を伺いました。到着してすぐに、ホストファミリーから「この子たちは普段何を食べるのか」「何をしたら喜ぶのか」などと声をかけていただき、本当の家族のように大切にされているのだと感じました。子どもたちが「帰りたくない」と口にするほど、家庭的な温かさに包まれたことは、貴重な経験になったと思います。同世代の学生との交流や、一般家庭での生活を通して多くの体験をした学生たちは、一段と成長した姿で吉備中央町に帰ってきました。解散式での学生挨拶では、「何事も思い込みで終わらせないことが大切だと学んだ」との発言があり、中学生の時期にその視点を持てたことは、今後の人生をより豊かな感性で歩いていく大きな糧になると感じました。学生一人ひとりの作文を読んでみても、それぞれ異なる視点から多くのことを感じ取っており、感心しました。

新型コロナウイルス等の影響により、6年ぶりとなった訪中。ただでさえ経済が著しく発展している中、中国の目覚ましい発展を身をもって体感しました。この6日間の訪中を通じて、本当に多くの方々の温かい



おもてなしを受け、本物の中国をこの身をもって感じられたことは、今後の中国交流への意義を大いに感じるものであり、よりやりがいをもって国際交流業務に取り組むことができる大変ありがたい機会でした。熱烈な歓迎でお迎えくださった姿勢や、淮安に残る岡崎嘉平太氏の歴史を胸に、今後の交流へ繋げてまいりたいと思います。

今回の交流にご尽力いただいたすべての皆様、そして温かく訪問団を迎えてくださった淮安市淮安区の皆様、心より感謝申し上げます。

異なる文化を超えるためには

リーダー 加賀中学校3年 大地 きなり



今回、国際交流研修に参加して中国に行き、私は、中国に対する印象がとても変わりました。私は、中国に行く前、日本は中国から文化を習っているから、文化の違いはさほどないと思っていました。しかし、実際に現地の人々と交流し、中国で生活してみて、日本と異なる部分がほとんどでとても驚きました。一方で、日本と似ている部分もあり、日本とは異なる部分

と日本と似ている部分をはっきりと感ずることができました。

まず、驚いたのは食事です。私ははじめ、日本で食べる中華料理を想像していました。しかし、中国の料理は油物が多く、香辛料が入っていて料理一つ一つの味が強かったです。本場の中華料理と日本の中華料理にとっても違いがあったので、勉強になりました。また、私は、中国のお米を食べた時びっくりしました。粒は長細く、味は独特で日本とは全く別物でした。私は歴史の勉強で日本の稲作は中国から伝わったと学んだので違っていても少しくらいだと思っていました。レストランの回転テーブルに並べられた料理は日本とは見た目も香りも違ったので正直戸惑いましたが、反対に新鮮な気持ちにもなりました。さらに、日本ではあまり食べない鳥の頭やザリガニがとても美味しく胸が高鳴りました。一方で、ホームステイ先の朝ご飯は餃子やピザ、エッグタルトなどで日本の味にとっても似ていたので中国にいる気がしませんでした。ホームステイ先の方が、「これも食べて」「おなかいっぱいになった？」など気にかけてくださってとても嬉しかったです。

また、ホームステイ先で、夜にスーパーやショッピングセンターに連れて行ってもらったときには「なんでも好きなものカゴに入れて」と言ってくださったり、ぬいぐるみやアイスを買ってくださったり、とても歓迎をしてくださいました。スーパーの帰りには家までバイクに乗せてもらい、車では見えなかった中国の景色が見えて不思議な気持ちでした。また、私たちが日本語を喋っていると、日本語に興味を持ってくださったみたいで何回も動画を撮っていました。なかでも「かわいい」という言葉を気に入ってくださって、私たちがもらった髪飾りをつけると何度も「かわいい」と言ってくださいました。私は日本語で「かわいい」と言ってくださったのがとても嬉しかったし、国境を超えて繋がれたと感じ、心が豊かになりました。

周恩来記念館では周恩来さんの銅像がいくつもあって、中国でとても尊敬されている方なんだと感じました。資料館には周恩来さんと岡崎嘉平太さんが握手をしている写真があり、私たちがここに来られたのはこの方々の深いつながりがあったからなんだと思います。感動しました。また、周恩来故居の中には岡崎嘉平太さんが植えた桜があり、中国も日本を想ってくれていると感じ、嬉しい気持ちになりました。



歓迎会を開いてくださったときは熱烈歓迎と大きな文字があり、中国の方々の歓迎の気持ちが嬉しかったです。私たちが出し物で桃太郎の劇をしたときには、中国の方々が私たちの大げさな動きを見て、笑ってくれていたのが伝わったのだと思います。たまたま嬉しかったです。

驚いたのは、トイレです。一番印象に残っているトイレは、下が溝で前から後ろがつながっていてドアがなく、仕切りがあるだけのものです。私は中国は全て最先端と



いうイメージがあったけど、整備が進んでおらず、日本よりも古いトイレもあることがわかり、思っていたことも実際に行ってみないとわからないなと思いました。

この研修を通して、ニュースや授業などで知った知識だけで「〇〇だろうな」と自分で思っているだけで終わらせないことが大切だと学びました。知っただけで終わらせずに「実際はどうか」という気持ちを持って行動をし、動き出さなかったら見ることができなかった隠されたものを見ていきたいと思います。また、中国と日本は政治の面ではうまくいっていないのかもしれないけど、それで今回できたつながりを疑わずに一生大事にしていきたいです。

そして、今回とても貴重な体験ができたのは、岡崎嘉平太さんと周恩来さんがお互いを思いやってくれたつながりがあったからなので、このことを忘れず、感謝し、これからは私が中国と日本を少しでもつなぐことができるよう、思いやって生きていきます。

あふれる想い

サブリーダー 加賀中学校3年 大倉英治



この夏休みに、僕は学生交流活動で中国の淮安を訪れました。海外に行くのは初めてだったので、行く前は少し不安もありましたが、実際に行ってみると想像以上に楽しく、学ぶことがたくさんあった旅になりました。

淮安に着いてまず感じたのは、とても大きくて都会的な町だということです。広い道路や高いビルが並んでいて、街全体がにぎやかで活気にあふれていました。日本の町とは雰囲気がだいぶ違って、そのスケールの大きさに驚きました。その一方で、伝統的な建物や歴史を感じさせる場所もあって、新しいものと古いものが一緒にある街だと感じました。

滞在中に食べた「淮揚料理」はとても印象に残っています。どの料理も見た目が美しく、味も上品で食べやすかったです。特に魚や野菜を使った料理は日本の味に少し似ていて、安心感がありました。一緒に食卓を囲むと自然に会話も生まれ、言葉があまり通じなくても楽しく交流することができました。料理はその土地の文化を伝えるものであり、人をつなぐ力があるのだと実感しました。

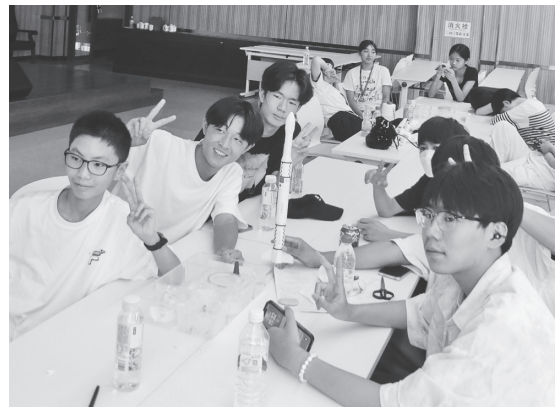


現地の学生との交流では、最初は言葉がなかなか通じず、伝えたいことをうまく言えなくて困ることもありました。それでも身振りや簡単な言葉を使いながらやりとりをしていくうちに、だんだんと打ち解けていきました。日本の遊びを紹介したときにはとても喜んでもらえて、一緒に笑い合うことができました。国が違って、同じ時間を共有することで自然に気持ちが通じ合うのだと感じました。

今回の交流を通して思い出したのは、岡崎嘉平太さんと周恩来さんのことです。二人は国や立場が違っていても強い友情で結ばれ、その関係が日中の友好につながったと言われています。僕たちが淮安を訪れて交流できたのも、そうした先人の努力があったからだと思います。人と人との信頼や友情が、国と国をつなぐ大きな力になるのだと改めて感じました。

この経験を自分だけの思い出で終わらせるのではなく、次の世代にもしっかりつなげていくことが大切だと思います。岡崎嘉平太さんと周恩来さんのように、僕たちも国境をこえて友情を広げていきたいです。今回の訪問で学んだことを忘れずに、これからも世界に目を向け、人と人とのつながりを大事にしていきたいです。

最後に、この活動を準備してくださった吉備中央町の皆さん、そして温かく迎えてくださった淮安区の皆さんに心から感謝します。この経験を大切に、これからの自分の成長につなげていきたいです。



吉備中央町初中生国際交流進修事業

国際交流事業での思い出

加賀中学校 3年 坂井香南



私は、今回の国際交流事業に参加して中国への考え方が変わり、今まで体験したことのないようなことがたくさんありました。その中で印象に残っていることが三つあります。

一つ目は空港の大きさと高層ビルの多さです。約二時間半のフライトを終え、上海浦東空港に着いた私が一番に思ったことは、「空港広すぎじゃろ。」でした。なので空港内の移動には地下鉄が必要でした。短時間の中で何本もある列車に乗り、ようやく空港を後にすると、またもや驚くことができました。外を見ると、たくさん的高層ビルが並び普段見ない景色がありました。「ここが中国か！」と感じ、初めての感覚に胸を膨らませながら、これから始まる6日間への期待が高まりました。

2つ目は周恩来記念館。周恩来故居見学です。記念館はとても広く、入ってすぐ大きな周恩来氏の像がありました。館内では周恩来氏の功績や中国の長い歴史が展示されていました。また、吉備中央町出身である



岡崎嘉平太さんとの写真も展示されていました。実際に目にしたとき、その偉大さがよりリアルに感じられました。事前に学習するだけでは分からなかった重みが伝わってきて、「こんなすごい人が自分と同じ場所から世界に羽ばたいたのか」と改めて感動しました。周恩来故居見学では住んでいた頃の様子が残されており、庭には嘉平太さんが植えた桜もありました。ずっと見てみたかったので見られて嬉しかったです。



三つ目はホームステイです。行く前から一番不安に思っていたのがホームステイでした。日本でも民泊やホームステイをしたことがあまり無かったので、異国の地でホームステイをすることに対して不安と心配が頭の中を行き交っていました。ですが、その不安を打ち消してくれるくらい楽しかったです。まずホストファミリーに出会った時、「困ったことがあったらなんでも言ってね。」とお母さんは言うてくれました。その言葉を聞いた時一瞬にして不安な気持ちが安心へと変わりました。ま

た、私たちが話している日本語を一生懸命聞いてくれたり「欲しい物があつたらなんでも買ってあげるよ。」と気遣ってくれました。その心遣いに何度も助けてもらいました。また、お母さんは髪の毛を乾かしてくれたり、毎朝おいしいご飯を準備してくれていました。私たちのことを本当の娘のように扱ってくれているのがすごく伝わってきて温かい気持ちになりました。たった3日間でしたがホストファミリーの温かさと優しさに触れ、最高の時間になりました。

この6日間を通して学んだことは相手を分かろうとする気持ちがあれば言葉の壁も乗り越えることができるといことです。言葉は通じなくても心は通じ合うということを改めて感じました。最初は不安と緊張でいっぱいだった研修も一緒に行けた7人のメンバーと引率の方々、ホストファミリー、研修に関わってくれた人達のおかげで学びの多い最高に楽しい充実した6日間になりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも人とのつながりを大切に、今回の交流で得たことを生かしていきたいです。6日間という短い間でしたが、私の人生の第一歩となりました。

吉備中央町初中生国際交流進修事業★

中国で学んだこと

加賀中学校3年 戸田 治 希



僕は8月2日から、5泊6日で中国に行きました。壮行式が始まると急に中国に行く実感が湧いてきてワクワクするような緊張するような気がしました。飛行機に乗り約2時間、ついに中国が見えました。そして中国に着く前にびっくりしたことが2つあります。1つ目は飛行機から見た長江がめちゃくちゃ大きかったことです。僕は今まで大きな川というと高梁川ぐらいしかみたことがなかったから、まるで海のように見えました。2つ目は耕作地がとても広がったことです。あとから中国のガイドをしてきている人に聞いたら「中国は人口14億人の内、約8億人が農民で領土の8割が農村地帯だ」と言っていて、更に驚きました。

2日目に上海から淮安に行き、初めてホームステイ先の人と会いました。正直異国の人と話したり泊まったりすることにとっても不安がありました。でもホームステイ先の人が笑顔で喋りかけてくれて不安と緊張が少しほぐれました。そして、場面は変わりますがホテルでも、パキスタン出身の人が「日本人ですか？私は以前日本を訪れたことがあります。」と気軽に話しかけてくれました。そこで僕は態度や姿勢、笑顔は国をこえられる、そしてお互いの仲を深める最初の一步だと思いました。そして僕はこの経験を元に特に国を超えた交流などで初対面の人と話すときは自分から緊張をほぐし、歩み寄れる人になりたいです。

そして4日目の夜にホームステイ先の人が景色を見に連れて行ってくれました。その景色がとても綺麗で印象に残っています。

5日目に淮安の中学校に行きました。ここでも中学校とは思えない広さでびっくりしました。そして中国



の生徒とあったとき、今までより人数が多くてやっぱり不安になったけど、一緒に中学校にある池で、掛け声をだし、息を合わせてボートを漕いだり、イス取りゲームをしたりして楽しく仲良くなることができました。そして、5日目の夜、初日から交流やホテルの予約などの段取りをしてくれていた陸さんと湯さんと日本のみんなで焼き肉に行きました。ここでこの2人と日本のみんながとても仲良くなりました。そしてその帰りに陸さんが「時代とともに町並みは変わっていくが、わたしたちの友情は変わりません。」と言っていて、かっこいいと思うと

もに来てよかったなと思いました。

僕は正直中国に対してあまりいいイメージを持っていませんでした。しかし、中国に行って帰ってきた今、行く前のイメージとは全く違います。確かに、前もって情報を集めておくことは大切です。しかし、僕はよく自分が思っていた認識と違う意見や情報があったときに「どうせ違うだろ」と決めつけてしまう癖があります。また、例えばスポーツを見ているときに、「ここでこうすればよかった。さっきのプレーは間違っている。」と思ったり、部活のテニスの試合などで自分の仲間に「なんであそこに打ったん」と思ったりすることがよくあります。しかし、実際にプレーしている人とそれを緊張もしないところから見ている人とでは一見同じ場面を見ている様でも緊張やいろいろな角度から見える動き、玉の体感速度など全てが違います。このように僕は中国に行ったことで、一つの意見や考えではなくいろいろな視点から物事を見ることの大切さ、そして、知った気になっていたが実際に体験してみないと分からないことが世の中にはたくさんあることを学びました。この訪問団で中国に行ったことは一生忘れられない思い出です。そして、このみんな学んだ日本ではできない、貴重な体験を今後の人生に活かしていきます。



吉備中央町初中生国際交流進修事業★

学校外での学び

加賀中学校3年 松田翔流



僕は、この国際交流研修事業のプリントが配られたとき、「チャンスがあるなら行ってみたい」という目標が明確ではないなか応募しました。ですが、面接のときが訪れるにつれて、「外国の人との交流を体験したい」という正確な目標が定まりました。なので、自分がメンバーに選ばれたときは、本当に嬉しかったです。そして、実際に中国で6日間過ごしてみて、「申し

込んで良かったな」と心から思えました。この作文で僕が体験して感じることができた交流を発表したいと思います。

まず1つ目は、淮安の学生たちとの交流です。冒頭でも話しましたが、僕は、外国の人と交流がしたいという思いからこの国際交流研修事業に申し込みました。その思いは、飛行機に乗り込んだときにも変わらず、中国の中学生と会える2日目を心待ちにしていました。そして2日目の夕方いよいよ中国の中学生と対面しました。ですが、いざ実際にあってみると緊張してしまって、数分前のわくわくと興奮が嘘のように固まってしまい、なかなか話しかける勇気が出ませんでした。ですが、座ったテーブルの前を見るとすでに中国の人と仲良く話している大倉さんと戸田さんの姿がありました。それを見て僕は、「自分がやりたかったことを思い出せ」と心に言い聞かせ、勇気を出して英語を使って自己紹介をしてみました。すると相手の中国の学生は、翻訳機を使って「自分は、あまり英語が得意ではない」と僕に見せてきました。僕は、一瞬恥ずかしさで頭の中が真っ白になりましたが、今度は、翻訳機を使って自分のことを話してみました。すると今度は、笑顔で「很高兴见到你」(お会いできて嬉しいです)と返してくれました。僕は、それが嬉しくなって食事をしながらその人と仲良く話しました。またホームステイに行ってから、家族の人と一緒に菓子や



フルーツを食べながら楽しく会話をすることができました。5日目の学校訪問の際には、ホームステイ先の人以外の人も会話をし、ピンポン玉運びやボートレースなどを通して仲を深めることができました。期待以上の交流ができたためお別れのときは、とても悲しかったです。バスに乗る前に「再见」（また会いましょう）とお互いに言葉をかけ会いました。本当に有意義な時間を過ごすことができたので、また会いたいと思いました。

2つ目は、2年生を中心とした加賀中学校の生徒との交流です。僕は、最初中国の人との交流しか考えていませんでした。しかし中国で行う出し物の準備期間を含めこの6日間を過ごしてみて、普段の学校生活では、めったに関わることができない2年生と話したり、食事をしたりして交流を深める事ができたので嬉しかったです。

この6日間は僕にとってとても有意義な時間でした。また、この国際交流研修事業を通して「まずは、チャレンジしてみることで大きなものを得ることができる」ということを学ぶことができました。このことを今後の生活に活かして、つかめるチャンスはどんどんチャレンジしていきたいと思いました。そして加賀中学校では、今現在他学年との交流の機会が少なく今回の研修でそれがもったいないと感じたので、2学期中に執行部として交流の場を設ける取り組みを引退までに成し遂げたいと思います。



吉備中央町初中生国際交流進修事業★

淮安に行ってきた感想

加賀中学校2年 大谷新太



今年の夏、僕たちは、町の国際交流の行事で、中国の淮安（わいあん）という町に行ってきました。淮安は、日本ではあまりなじみがないかもしれませんが、中国では歴史が深く、文化が豊かな町だと聞きました。最初は「中国ってどんなところなんだろう？」と少し不安もありましたが、実際に行ってみると現地の人たちがとても親切で、たくさんの思い出ができました。

今回の行事では、僕たち中学生が町の代表として、日本の文化を紹介したり、淮安の中学生たちと交流したりすることが目的でした。僕たちからは劇や日本のマンガを紹介しました。最初は言葉が通じず、少しとまどったり、きまづい空気になってしまうこともありましたが、翻訳機や、ジェスチャーなどで表現しながらだんだんとコミュニケーションがとれるようになりました。淮安の生徒たちも自分たちの文化を紹介してくれて、中国のダンスや歌などをひろうしてくれました。特に僕がおどろいたのは、中国の生徒が言葉も分からない僕たちにいっしょうけんめい話しかけてくれたことです。僕たちは同じ中学生なのに言葉もちがって生活のスタイルもちがうけれどゲームやスポーツなどの何気ない会話で仲良くすることができました。



たくさん観光名所に行きましたが、その中の二つを紹介します。一つ目は「周恩来記念館」です。中国の歴史に大きな影響を与えた人物岡崎嘉平太さんと周恩来さんの関係について学ぶことができました。周恩来さんは

淮安出身の有名政治家で、小さいころから国をよくしようという思いを持っていたそうです。その話を聞き自分も将来誰かの役に立てるような人になりたいと感じました。二つ目は「淮安府署」です。歴史のある建築物です。淮安府署には、昔の生活道具や服、筆や印かんなどが展示されています。それを見ると今はコンピューターやAIでなにごとにも便利な世の中だが、昔の人たちは、道具や知恵を使って工夫していたんだなと思い、尊敬の気持ちでいっぱいでした。ホームステイ先の人も淮安府署は町の中心で、人々の信頼を集める場所だったと話していました。今の市役所のような存在です。身近で、時には人々のけんかの仲裁をしていたそうです。昔もルールを守り、話し合いが大切だとみんな思っている人だと感じました。そして、この旅で一番印象に残ったのは、国がちがっても、心が通じ合えるということです。言葉や文化はちがっても、おたがいに理解しようとする思いがあればちゃんと気持ちは伝わると思いました。そして日本の文化を伝えることの大切さも学ぶことができました。僕たちの伝えたプレゼンをしっかり見て体験して理解しようとしてくれたことがとてもうれしく思いました。

今回の淮安への旅を通して、自分の視野が少しでもひろがったと感じています。もしまた機会があれば、今度は中国語を勉強して、現地の人たちともっと深く交流してみたいです。そして、いろいろな国の人たちと出会いおたがいの文化を知り合うことの大切さを忘れずにいたいです。



吉備中央町初中生国際交流進修事業★

みんなで乗り越えた中国

加賀中学校2年 大森 妃奈乃



はたから見ると異例の経験の中国研修。出発便から飛行機が1時間以上遅延、初めての海外であることで私は、不安な気持ちも大きかったです。ドキドキ、ワクワクで日本を飛び立ちました。そして実際に中国上海空港に到着すると、まず目に入ってきたのは大都市の活気でした。空港からホテルに向かうバスの中から見えた風景はあいにく雨でしたが、日本とは全く違う建物の高さや大きさ、色合いでみんな「すごい!」としか言っていなかったのを覚えています。道路の広さや車の多さ、そして歩道を日本で言う原動機付自転車、通称原付がクラクションを盛大に鳴らしながら通る様子、私は全てにとっても唖然としていました。

そしてホテルにて迎えた初めてのみんなで食事。「じゃんけんて席を決めよう!」三年生がかけてくれた言葉。この一言であまり喋れてなかった人とも関わることができました。そして、ここで私達の仲は驚くほど



一気に深まりました。先生たち大人もワイワイと一気によい関係を築いているように見えて生徒の間では笑い話になっていました。その中で一番印象に残ったのはきゅうりジュースです。日本ではおそらく見ることはない飲み物にみんな驚きました。味はとてもみずみずしいきゅうりという感じで、これもとてもいい経験になりました。1日目は仲を深め、これからの研修に気合を入れることのできた日になりました。

それからの研修のスケジュールはとても充実していました。観光や文化や歴史的な建物、これらを見て回るとき、現地の方からその背景や意味を詳しく教えていただきました。

事前研修で教わった知識を強く身近に感じることができました。やっぱり実際にその場に立つことで、学んだときは全然違う迫力や重みを感じることができました。商店街では様々な色のチャイナ服、果物など、中国ならではの感じのカラフルで詰め込まれているように売ってあって日本とはとても違い楽しかったです。

ホームステイの方と過ごした時間もとても思い出に残っています。最初は私達の重たいキャリーケースを家まで運んでくれて、お別れするときは私達がキャリーケースをリビングに置かせていただいていたら、気づかないうちにもう車まで運んでくださったり、「緊張しないでね」と優しく声をかけてくださったり、私達にどこに行きたいか、何を食べたいかを聞いて、それを本当にしてくださったりなど、本当にたくさんのことをしてくださいました。このホームステイの人とのお出かけを通して中国の商店街や街の雰囲気を実際に見て感じることができました。

そして、私がやっぱり一番思い出に残っているのは、仲間たちとの食事や会話です。6時間のバス移動、みんなで大きなテーブルを囲んで楽しく食べた食事。ここで一番思い出に残っているのは5日目の夜ご飯です。みんなでゆっくりご飯を食べられる最後の時間でした。みんな今までより一番盛り上がっている中でご飯を食べました。やっぱりご飯はみんなと仲良くなれるきっかけになって他学年と仲良くなる難しさ、楽しさ、いろんなことを学べて、いい経験になりました。

私はこの中国研修を通して他国との関わり、文化を尊重することの大切さ、誰とでも仲良くすることの良さ、みんなで協力して大きな事を成すという達成感、いろんなことを知り、体験することができました。この研修に関わってくれた、現地の人、役場の人、先生も通訳さんも本当に感謝しています。ありがとうございました。



国際交流事業で学んだこと

加賀中学校2年 吉田小春



8月2日の朝、私はいつもより早く目を覚ましました。ニュースや新聞でしか見たことのなかった中国に行くことに、少し怖さと緊張を感じていたからです。中国については、「うるさそう」「衛生面が不安」「人が冷たそう」など、まわりの人たちからネガティブ

な話を聞くことが多く、私自身もどこか偏見を持っていたように思います。言葉が通じないことへの不安も大きく、心臓の鼓動がいつもより早く感じられました。

しかし、研修の6日間でそうした不安や偏見は少しずつ消えていきました。むしろ、自分の中に新しい価値観が芽生えたように感じています。一番心に残っているのはホームステイの経験です。言葉が通じなかったらどうしよう、怖い人だったらどうしよう、と不安でいっぱいでしたが、実際に出会ったホームステイ先の家族はとてもあたたかく迎えてくれました。「しっかり休んでね」「どこか行きたい場所はある？」など、



翻訳アプリを使いながらやさしく話しかけてくれたのが印象的でした。歓迎会では、初めて会ったばかりなのに、一緒に食事をしながら笑い合って話げことができました。言葉はうまく通じなくても、気持ちはちゃんと伝えられるのだと感じました。

特に記憶に残っているのは、夜に淮安の町を案内してもらったことです。夜の町には屋台が並び、お店の人たちが通行人に声をかけていて、日本ではあまり見かけないようなにぎやかな雰囲気に驚きました。お店の人もみんな親切で、私たちが日本人だとわかると、英語やジェスチャーを使って丁寧に対応してくれました。「中国の人は冷たい」という印象は、完全にくつがえされました。むしろ、心のあたたかい人ばかりで、私はとても感動しました。私は自分なりに、「你好（ニーハオ）」や「谢谢（シェイシェイ）」など知っている中国語を使ったり、学校で習っている英語を使ったりして、できるだけ気持ちを伝えようと努力しました。発音がうまくできず、なかなか伝わらないこともありましたが、伝わったときに相手が笑顔でうなずいてくれると、本当にうれしかったです。

もうひとつ印象的だったのは食事です。日本ではあまり見かけないような食材が多く、最初は「本当にこれ食べられるのかな？」と戸惑いましたが、みんなでいろいろな料理に挑戦しました。一番驚いたのはザリガニです。最初は誰も手をつけようとしませんでした。先生にすすめられて食べてみると、思っていた以上においしくて驚きました。あきらめずに挑戦してみることで、新しい発見があるのだと実感しました。

こうして過ごす中で、日本との文化の違いに驚くこともたくさんありましたが、それを理解しようとする気持ちを持つことで、今まで知らなかった世界が広がっていくことに気がつきました。そして、言葉が通じなくても、相手に自分の思いを伝えたいという気持ちがあれば、人と人はつながることができるということも学びました。恐れずに、一歩踏み出すこと。自分の中にある先入観を壊すこと。それはとても勇気がいることだけれど、確実に世界を広げるきっかけになるのだと、この研修を通して実感しました。私はこの体験を通して、自分の見ていた世界がいかに狭かったかに気づきました。これからも、今回の学びを忘れず、毎日の生活の中で少しずつ自分の世界を広げていきたいと思います。



—— 参 考 资 料 ——

研修団募集から帰国まで

- 5月2日(金)～5月21日(水)
研修団員募集 (応募者数16名)
- 6月1日(日) 研修団員選考会開催
- 6月9日(月) 団員決定通知 (団員8名)
- 6月12日(木) 第1回事前研修会
引率者委嘱状交付
リーダー、サブリーダーの決定
友好交流会での発表内容について検討
- 6月19日(木) 第2回事前研修会
発表内容練習
- 7月3日(木) 第3回事前研修会
中国語講座 講師 伊達玉美氏
- 7月8日(火) 第4回事前研修会
発表内容練習
- 7月15日(火) 第5回事前研修会
発表内容練習
- 7月28日(月) 第6回事前研修会
岡崎嘉平太氏について学習
(岡崎嘉平太記念館 初岡氏から)
最終確認事項連絡・発表内容練習
- 8月2日(土) 壮行式
- 8月2日(土)～7日(木)
中学生国際交流研修団訪中
- 8月7日(木) 帰国



第1回事前研修会 1



第1回事前研修会 2



第3回事前研修会



第4回事前研修会



第5回事前研修会



第6回事前研修会

令和7年度 吉備中央町中学生国際交流研修団 日程表

※中国到着後の行程時刻は、すべて中国時間(現地時刻)で記載しています。

	月日(曜)	都市名	交通手段	時刻	行 動 予 定
1	8月2日(土)	吉備中央町 岡山 上海	町バス MU528 バス	11:00 11:30 12:00 15:10 17:00 19:00	壮行式 総合会館前 発 岡山空港 着 中国東方航空直行便にて上海へ 上海空港 着 ホテルへ 夕食(ホテル内) (上海/ホテル泊①)
2	8月3日(日)	上海 淮安	専用車	08:00 13:00 13:30 14:30 18:00	上海から淮安区へ(約4.5時間) 淮安区 着 昼食 周恩来記念館、故居見学 歓迎会(夕食) *歓迎会後、学生はホームステイへ (淮安/学生:ホームステイ 引率者:ホテル泊②)
3	8月4日(月)	淮安	専用車	09:00 12:00 13:00 14:45 18:30	呉承恩故居、淮安府署、漕運博物館見学 昼食(淮安賓館) 休憩 百斯特(BESTA)生態農業園、施河智教享特色小鎮、河下古鎮見学 夕食(天妃宮酒家) (淮安/学生:ホームステイ 引率者:ホテル泊②)
4	8月5日(火)	淮安	専用車	09:30 12:00 13:00 14:00 18:00	淮安市青少年総合実践基地で活動 航空館見学、遠隔操作機器を使ったシミュレーション体験、ミニロケット製作・発射 昼食(基地内) 休憩 引き続き基地内で活動 アートな点心づくり、漆扇色付け体験 夕食(基地内) (淮安/学生:ホームステイ 引率者:ホテル泊②)
5	8月6日(水)	淮安 上海	専用車	09:00 11:40 12:10 18:20	淮安外国語学校訪問 校内見学、協定調印式、記念品交換、友好交流会 歡送昼食会(河下古鎮文樓) 淮安区から上海へ(約4.5時間) 夕食(上海内飲食店) ホテルへ (ホテル泊③)
6	8月7日(木)	上海 岡山 吉備中央町	専用車 MU527 町バス	06:30 07:00 09:35 13:00 13:15 13:30 14:00	朝食(ホテル内) ホテルを出発し、空港へ 空港にて出国手続き 中国東方航空直行便にて岡山へ 岡山空港 着 解散式(岡山空港内) 岡山空港 発 総合会館前 着 解散

■宿泊ホテル

①上海 上海浦東空港華美達広場酒店 ラマダ上海浦東エアポート

(上海市浦東新区啓航路1100号)

TEL:+86-21-38494949

②淮安 淮安蕭湖国際大酒店

(江蘇省淮安市淮安区北門大街370号)

TEL:+81-517-85868888

③上海 桔子上海浦東国际机场酒店 (上海市浦東新区施湾六路566号)

TEL:+86-21-50366629

淮安市淮安区の概況

1. 区の概況

中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区は、南京市の北約190km、蘇北平原の中部に位置し、面積は1,600km²で、人口120万人余りの町。

2,000年以上の悠久の歴史があり、歴史的に貴重な建造物が多数残されている。京杭大運河と淮河の合流地点に位置しており、重要な水陸交通の要として知られる都市である。

さらに『西遊記』の作者、呉承恩氏をはじめ、多くの文人や偉人を輩出している。なかでも、1898年に淮安区に生まれた周恩来氏は、中華人民共和国の偉大な指導者であり、世界的にも有名な人物である。

米作、畜産、水産養殖を中心とした農業の町であるが、近年では交通施設整備が急速に進展しており、飛行場や高速鉄道が整備され、今後も多岐にわたる分野で飛躍的な発展が見込まれている。

2. 淮安外国語学校・淮安区の教育について

今回訪問した淮安外国語学校は、1999年に創設された学校である。周恩来記念館のすぐそばにあり、校門を入ると周恩来総理の像が立っている。校舎は上空から見ると鍵の形をしており、生徒らが知恵のカギで世界の扉を開くことを意味している。週末を利用した職場体験やスポーツ交流など、さまざまな行事を行っている。個性や自由の幸福を身につけることが目標であり、「3年の教育で、30年先の未来を描き、国と民族の300年先を考える。」という理念のもと、学校教育を行っている。

淮安市淮安区の小・中学校は約600校あり、中学校には初等部（日本の中学校）と高等部（日本の高校）がある。その上に専門学校、大学等があり、学生は約12万人である。

淮安市淮安区の学校の一年は次のとおり。

月	3	4	二 学 期			6	7	9	9	一 学 期		1	1
年間過程	冬 休 み	始 業			終 業 ・ 卒 業		夏 休 み		始 業 ・ 入 学	学 年 始 まり	運 動 会	終 業	冬 休 み

3. 淮安市淮安区の一般家庭

中国のホームステイ先の家庭は、日本と大きな違いはなく、生活に必要な設備が整えられている。住居形態は一軒家よりもマンションなどの集合住宅が多く、縦に長い建物が多く見られる。高層のマンションにはエレベーターが設置されている場合が多い。

外国の子どもを受け入れることに積極的であり、国際交流に前向きな姿勢がみられる。

また、多くの家庭において、子どもたちの学習環境が整えられており、教育を大切にしている様子がうかがえる。

中華人民共和国淮安市淮安（楚州）区との友好交流

■ 現在までの交流の経過

1993年（平成5年度）

■ 5月22日～5月23日

日中友好都市縁組予備調査団来町
町内視察 賀陽町を表敬訪問
江蘇省人民政府 沈才元氏、他3名

■ 9月4日～9月11日

賀陽町から中国行政視察団訪中
淮安市、江蘇省人民政府、中日友好協会を表敬訪問
町長、議会議長（菅野寛）、企画振興課長（難波源介）

■ 11月11日～11月15日

淮安市訪日団来町
町内、県内視察、賀陽町を表敬訪問
友好交流に関する意向書を交換
淮安市副市長 陳寿松、他4名

1995年（平成7年度）

■ 9月15日～9月22日

賀陽町視察団訪中
淮安市、江蘇省人民政府表敬訪問
上村助役、有安議長、米倉教頭（竹莊中学校）、下山次長（企画振興課）

■ 10月30日～11月6日

淮安市訪日団来町
町内、県南視察、賀陽町を表敬訪問
友好交流に関する覚書を交換
淮安市人民対友好協会 陳子龍氏、他4名

1996年（平成8年度）

■ 8月19日～8月25日

第1回中学生淮安市へ訪中
新池稔治賀陽町議会議長を団長とし、中学生4名、商工業関係2名、教師1名、事務局1名
ホームステイ2泊3日
中学生と懇親会（歌・踊り・カラオケ等）
絵画・書道の交換 小学生 絵画39点 書道56点
中学生 絵画35点 書道30点
ビデオテープの交換

■ 12月3日～12月8日

淮安市訪日団来町
町内、県南、京阪神視察、賀陽町を表敬訪問
友好交流に関する意見交換
淮安市長 花法栄氏、他3名

1998年（平成9年度）

■ 3月3日～3月7日

賀陽町友好訪問団訪中
周恩来生誕100周年記念式典参加
竹竝町長、有安議長、下山次長（企画振興課）

1998年（平成10年度）

■ 5月13日～5月19日

淮安市友好訪問団来町
友好提携協定締結について確認、新潟県西山町との合同交流
淮安市人民政府 陳寿松市長、他4名

■ 8月18日～8月25日

第2回中学生淮安市へ訪中
三尾企画振興課長を団長とし、中学生8名、教師1名
ホームステイ2泊3日
新安小学校歓迎会（歌・踊り等）

■ 11月25日～11月29日

賀陽町・淮安市友好交流記念『中国展』開催

1999年（平成10年度）

■ 1月26日～1月29日

淮安市友好訪問団来町
淮安市・賀陽町友好提携協定調印式
淮安市人民政府 陳寿松市長、他4名

1999年（平成11年度）

■ 6月11日～6月18日

賀陽町友好訪問団訪中
友好提携協定後の答礼、新町長による表敬訪問
重森町長、小川議長、吉岡商工会長、石井校長（大和中学校）、大木主査（企画振興課）

■ 8月24日～8月29日

淮安市学生友好訪問団来町
淮安市 趙副市長、他2名、学生8名
ホームステイ2泊3日
大和中学校歓迎交流会（合奏・合唱・銭太鼓・踊り等）

2000年（平成12年度）

■ 8月18日～8月25日

第3回中学生淮安市へ訪中
伊達企画振興課長を団長とし、中学生8名、教師2名
岡崎嘉平太物語、中国語漫画本作成（500部）
淮安市へ300部贈呈
ホームステイ2泊3日
スポーツ交流としてバスケットボール・バドミントン
中学生同士の歓談会、交流会（松山踊りを披露）

2001年（平成12年度）

■ 2月

中国国務院の行政区域調整企画に基づく決定により、淮安市の地名が楚州区に変更

2001年（平成13年度）

■ 7月17日～7月22日

第2回学生友好訪問団来町

楚州区対外友好協会 朱亜文副会長を団長とし、学生8名、引率3名

ホームステイ2泊3日

竹荘中学校（交流懇談会、英語、パソコン授業、給食を一緒に）

豊野小学校 歓迎交流会（合唱、合奏、スタンプラリーなど）

■ 9月21日～9月25日

2001年日中友好駅伝大会参加友好訪問団訪中

賀陽町体育協会 亀山副会長を団長とし、他8名

■ 10月5日～10月12日

賀陽町友好訪問団訪中

賀陽町長、議会議員8名他

友好都市関係確認書調印（10月7日）

楚州区人常大委會議員、賀陽町議会議員懇談会

2002年（平成14年度）

■ 8月18日～8月25日

第4回中学生淮安市楚州区へ訪中

菅野教育長を団長とし、中学生8名、教師2名

ホームステイ3泊4日

中学生同士の歓談会、交流会（フォークダンスを披露）

2003年（平成14年度）

■ 3月2日～3月9日

賀陽町友好訪問団訪中

賀陽町女性団体連絡会会長 難波美智哉団長、他11名、他

周恩来総理誕生105周年記念イベントへの参加

高齢者・幼児施設への訪問、日中女性交流懇談会開催

2003年（平成15年度）

楚州区学生友好訪問団来町 中止

重傷急性呼吸器症候群（SARS）が中国、香港、台湾等の地域で集団発生したため、受け入れ・ホームステイについて検討した結果、延期することに決定

2004年（平成16年度）

■ 7月30日～8月6日

平成16年度中学生国際交流訪中団、淮安市楚州区へ訪中

難波助役を団長とし、中学生8名、教師2名

ホームステイ4泊5日

中学生同士の歓談会、交流会（新潟県柏崎市と同行、やとさを披露）

■ 8月19日～8月24日

平成16年度中学生国際交流訪問団訪日、来町
楚州区人民政府常務副会長 宗兆昱を団長とし、学生10名、引率3名
ホームステイ2泊3日
吉川中学校（交流懇談会、書道、合唱、祭囃子で交流、記念品授与、施設案内）
大和小学校 学校施設見学（岡崎嘉平太文庫他）、岡崎嘉平太先生墓参り

2005年（平成17年度）

■ 6月16日～6月23日

淮安市楚州区友好訪問団訪日、来町
友好提携協定確認式
淮安市楚州区人民対外友好協会会長（楚州区副区長）劉友超、他4名

■ 8月18日～8月23日

平成17年度中学生国際交流訪問団訪日、来町
淮安市楚州区人民対外友好協会副会長 王國權を団長とし、学生10名、引率3名
ホームステイ2泊3日
大和小学校での交流会、町内視察、企業見学、岡崎嘉平太先生墓参り

2006年（平成18年度）

■ 7月28日～8月4日

平成18年度中学生国際交流訪中団、淮安市楚州区へ訪中
下山総務部長を団長とし、中学生8名、教師2名、町国際化推進協会1名
ホームステイ3泊4日
中学生同士の歓談会、交流会（よさこいソーランを披露）

2007年（平成19年度）

■ 8月9日～8月14日

平成19年度中学生国際交流訪問団訪日、来町
淮安市楚州区人民政府副区長 王宝玉を団長とし、学生10名、引率3名
ホームステイ3泊4日
加茂川中学校での交流会、町内視察、企業見学、岡崎嘉平太先生墓参り

2008年（平成19年度）

■ 3月3日～3月8日

吉備中央町友好訪問団訪中
重森町長を団長とし、議会議長、国際化推進協会会長、総務課長の計4名
周恩来総理誕生110周年記念イベントへの参加
日中友好懇談会開催

2008年（平成20年度）

■ 7月28日～8月3日

平成20年度中学生国際交流訪中団、淮安市楚州区へ訪中
井上教育長を団長とし、中学生8名、教師2名、町国際化推進協会1名
ホームステイ3泊4日
中学生同士の歓談会、交流会（すずこ、中国語で歌「四季の歌」、もんきり遊びで交流）

2010年（平成21年度）

■ 2月4日～2月9日

平成21年度中学生国際交流訪問団訪日、来町

淮安市楚州区人民政府副区长 呉国飛を団長とし、学生8名、引率3名の計12名訪日

ホームステイ3泊4日

畠山製菓視察、竹荘中学校での交流会、町内視察、国際化推進協会おもてなし、岡崎嘉平太先生墓参り

2010年（平成22年度）

■ 7月30日～8月5日

平成22年度中学生国際交流訪中団、淮安市楚州区へ訪中

津島教育長を団長とし、中学生8名、教師2名、町国際化推進協会1名

ホームステイ2泊3日

学生同士の交流会（よさこいソーラン、合唱を披露）

2011年（平成23年度）

■ 楚州区学生友好訪問団来町 中止（東北大震災の影響）

■ 9月21日～9月24日

吉備中央町友好訪問団訪中

草地議長を団長とし、下山副町長、杉元商工会長、ソーイング津崎社長、協働推進課 根本の計5名

中国淮安市第1回国際友好都市大会への参加

2012年（平成24年度）

■ 8月9日～8月14日 台風により日程1日遅れる

平成24年度淮安区中学生友好訪問団訪日、来町

淮安市淮安区人民政府総務副区长 董国喜を団長とし、学生8名、引率3名の計11名訪日

ホームステイ2泊3日

大和中学校での交流会（バドミントン）、国際化推進協会おもてなし（うちわ作成・浴衣の着付け・松山踊り）、岡崎嘉平太記念館視察（灯籠作り）、岡崎嘉平太先生墓参り

2013年（平成25年度）

■ 8月19日～8月25日

平成25年度中学生国際交流訪中団 淮安市淮安区へ訪中

吉備中央町協働推進課長 岡崎課長を団長とし、中学生8名、教師1名、町国際化推進協会1名、協働推進課（事務局）1名

ホームステイ2泊3日

学生同士の交流会（よさこいソーランの披露、うらじゃ総踊りで交流）

2014年（平成26年度）

■ 7月22日～7月26日

平成26年度淮安区中学生友好訪問団訪日、来町

淮安市淮安区人民政府副区长 談効艶を団長とし、学生7名、引率3名の計11名訪日

ホームステイ2泊3日

加賀中学校での交流会（吹奏楽の披露、フラバールボールパレーでの交流）

国際化推進協会おもてなし（うちわ、浴衣の着付け、そうめん流し、ヨーヨー釣り等）

岡崎嘉平太記念館視察、岡崎嘉平太先生墓参り

2015年（平成27年度）

■ 8月17日～8月22日

平成27年度中学生国際交流訪中団、淮安市淮安区へ訪中
吉備中央町加賀中学校 古矢校長を団長とし、中学生8名、教師1名、町国際化推進協会1名、町協働推進課（事務局）1名
ホームステイ2泊3日
学生同士の交流会・歓談会（よさこいソーランの披露、伝承遊び（コマ・けん玉・あやとり）で交流）

2016年（平成28年度）

■ 8月1日～8月5日

平成28年度淮安区中学生友好訪問団訪日、来町
淮安市淮安区人民政府副区長 孫志標を団長とし、学生8名、引率5名の計13名訪日
ホームステイ2泊3日
加賀中学校での交流会（吹奏楽の演奏・スポーツ交流）
国際化推進協会おもてなし（うちわ作成、浴衣の着付け、お琴演奏等）
岡崎嘉平太記念館視察、岡崎嘉平太先生墓参り

2017年（平成29年度）

■ 8月18日～8月23日

平成29年度中学生国際交流訪中団、淮安市淮安区へ訪中
吉備中央町教育委員会事務局 山本泰弘事務局長を団長とし、中学生8名、教師1名、町国際化推進協会1名、町協働推進課（事務局）1名
ホームステイ2泊3日
学生同士の交流会・歓談会（世界に一つだけの花を手話を変えて歌の披露、伝承遊び（折り紙・お手玉）で交流）

■ 10月27日～10月29日

吉備中央町友好訪問団訪中
山本町長を団長とし、議会議長、岡崎嘉平太記念館館長、協働推進課長の計4名
周恩来総理誕生120周年記念イベントへの参加
国際友好都市の交流

2018年（平成30年度）

■ 8月6日～8月10日

平成30年度淮安区中学生友好訪問団訪日、来町
淮安市淮安区政府副区長 張建閔を団長とし、学生8名、引率4名の計13名訪日
ホームステイ2泊3日
加賀中学校での交流会（吹奏楽の演奏・スポーツ交流）
国際化推進協会おもてなし（うちわ作成、浴衣の着付け、お茶体験等）
岡崎嘉平太記念館視察、岡崎嘉平太先生墓参り

2019年（令和元年度）

■ 8月18日～8月23日

令和元年度中学生国際交流訪中団、淮安市淮安区へ訪中
吉備中央町議会 黒田員米議長を団長とし、中学生9名、中学校校長1名、町協働推進課課長1名、町協働推進課（事務局）1名
ホームステイ2泊3日
学生同士の交流会・歓談会（漫画・アニメについてのプレゼン、ラジオ体操、惑星ループの歌に合わせてダンスで交流）

■ 9月27日～9月29日

江蘇省人民対外友好協会訪問団訪日、来町

2019江蘇省国際特色のある鎮の発展交流会事前研修

江蘇省人民対外友好協会 周衛東秘書長とし、鎮江市丹陽市人民対外友好協会理事、

江蘇省人民対外友好協会 副主任科員、江蘇省外事弁公室翻訳センター韓国語通訳の計4名

■ 11月4日～11月8日

吉備中央町友好訪問団訪中

山本町長を団長とし、吉備中央町国際化推進協会会長、円城土地改良区理事長の計3名

2019江蘇省国際特色のある鎮の発展交流会への参加

2020年（令和元年度）

■ 2月7日

中国での新型コロナウイルス発症に伴い、淮安区へマスク発送

20,000枚

2020年（令和2年度）

■ 4月13日

日本でも新型コロナウイルスが流行し、淮安区からマスクの送付

50,000枚

■ 12月

中国江蘇省等が行う第4回「友好都市の絵」青少年国際絵画展へ出展

絵画38点

2024年（令和6年度）

■ 8月5日～8月8日

令和6年度淮安区中学生友好訪問団訪日、来町

友好訪問団は、淮安区楚州区実験中学校校長 徐小明を団長とし、学生9名、引率1名、計10名訪日

ホームステイ2泊3日

日中教育交流協定書締結式（淮安区楚州区実験中学校・吉備中央町立加賀中学校）

歓迎会（淮安市淮安区人民政府常務副区長 印祺をはじめとする政府代表訪問団、計6名が出席）

加賀中学校での交流会（吹奏楽の演奏・スポーツ交流・折り紙体験等）

国際化推進協会おもてなし（うちわ作成、浴衣の着付け、すいか割り等）

ブルーベリーランド吉備でのブルーベリー摘み取り体験

岡崎嘉平太記念館視察

■ 11月3日～11月8日

吉備中央町友好訪問団訪中

山本町長を団長とし、教育長、長田自治会長、ダイニチ株式会社代表取締役、

吉備高原賀陽荘荘長、町定住促進課長、協働推進課長、協働推進課課長補佐の計8名

中国淮安市淮安区友好提携協定締結25周年記念事業への参加

「中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区と岡山県加賀郡吉備中央町友好交流のさらなる強化に関する覚書」

調印式

周恩来記念館・周恩来生家見学他淮安区内の公共施設、企業等の視察、歴史的建造物や記念館の見学

■ 8月2日～8月7日

令和7年度中学生国際交流研修団、淮安市淮安区へ訪中

加賀中学校 大場めぐみ校長を団長とし、中学生8名、中学校教諭1名、
町協働推進課課長1名、町協働推進課（事務局）1名、通訳1名 計13名

ホームステイ3泊4日

日中教育交流協定書締結式（淮安外国語中学校・吉備中央町立加賀中学校）

周恩来記念館・周恩来生家見学他淮安区内の公共施設、企業等の視察、歴史的建造物や記念館の見学
学生同士の交流会・歓談会（桃太郎の演劇、日本アニメの紹介）

吉備中央町中学生国際交流研修事業
2025年（令和7年度）
第13回 中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区訪問

編集・発行 吉備中央町国際化推進協会

〒716-1192

岡山県加賀郡吉備中央町豊野1-2

TEL 0866-54-1301

事務局（吉備中央町 協働推進課内）